

前部門長(第87期) 小野寺英輝(岩手大学)



87期は当部門にとって、これまでの活動の総括と新しい一歩を踏み出しの期であったと言えます。5年ごとに行われる部門評価でランクC(活動が十分でない)の評価を受けた当部門は、歴代部門長を中心として登録各会員各位が活動の活性化、多角化に励んだ成果として、中間評価においてすべての評価項目でB評価を受けることが出来ました。120回を超したイブニングセミナーの開催や本会関係報道の8割を占める機械遺産委員会の活動など、対外的な普及啓発活動も非常に活発化しつつあり、このような点も学会内の部門横断的活動として高く評価されて居ります。

とはいえ、評価がBランクにとどまったことは、別な言い方をすれば当部門の今後に変更の活性化が求められているということでもあります。上記のように活動は活性化してきましたが、その拡がりや未だ十分に部門横断的でない、あるいは一般への普及浸透が図られていないという指摘です。部門内では各活動の意義と重要性が認識されつつあるとはいえ、それをいかにすれば学会内の共通認識へ高めていけるかということがこれからの課題といえるでしょう。87期には、そのひとつのきっかけとすべく、交通物流部門との合同企画を開始し、特に今期はその意義を両部門の幹事団(総務委員会)が共通化することを目的として2回の合同見学会とキーノート講演を実施しました。先方は当部門と同様に部門横断的な色彩が強く、しかも企業所属の会員が多いという特性があります。この活動を起点として今後この他の部門との交流を深めていく中で当部門の柱ともいえる社会の中での技術の位置づけの明確化、あるいは社会と技術の連関の認識という切り口を共通化できれば新たな広がりにつながると期待されます。

さて、先日“はやぶさ”が60億キロの長旅を終えて地球に帰還しました。7年前ターゲットマーカーへの署名に応募し、惑星“イトカワ”に名前が書かれたプレートが落ちている私としては非常に興味を持ってその状況を見守ってきたのですが、帰還日の夜、期待してチャンネルをあちこち回したところ(この言葉はもはや死語でしょうか)、どこの局も中継していません。あれだけの偉業だったにもかかわらず、テレビの生中継はなしということにささか落胆させられました。科学・技術の成果がワールドカップ人気に押されてしまったのでしょうか?このところマスコミの「何を伝えるべきか」についての選択が“万人受けするこ

と”一点に偏ってしまっている気がします。これに対し、英国はご承知のように産業革命の地として、世界の産業技術を先導した歴史を誇り、それを様々の面で次世代に伝えようとしています。そのような見識がわが国マスコミや教育現場には乏しいように感じられ、残念にも思っているのですが、その状況を少しずつでも変化させることが当部門に与えられた責務でもあります。

我が国は何を後代に伝えそして国の方向性決定の縁にするのか、今の時代にはそれが求められています。当部門の活動を活性化し、拡大していくことは、そのような現状に変化を呼ぶ一石となるはずです。ご支援に感謝し、黒田新部門長のもとでの今後の活動のより大きな発展を願いつつ、部門長退任のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

---



---

日本機械学会

技術と社会部門ニュースレターNo.23

(C)著作権:2010 社団法人 日本機械学会 技術と社会部門